

## 資料4

# 地域研修

1. 予定・実施状況
2. 地域研修の企画・実施の標準プロセス(案)
3. 令和7年度募集の改善点

# 1. 地域研修の予定・実施状況

     : 地域研修コーディネーターの今回の報告範囲

応募団体		奈良県	岡山県	愛知県	徳島県	宮崎県	秋田県
R6希望 テーマ		発災時に自治体に 求められる役割と 応急対策の実態	受援体制の確認	受援体制・受援計画 及び応援団体の 受け入れ	災害対策本部運営 の各班の役割、 関係機関との連携	個別避難計画	初動期の 災害対策本部の 設置・運営
地域 検討 会	事前	7/17 (水)	7/17 (水)	7/30 (火)	7/24 (水)	7/17 (水)	10/3 (木)
	第1回	8/28 (水)	8/6 (火)	9/20 (金)	8/27 (火)	10/15 (火)	11/1 (金)
	第2回	10/2 (水)	9/6 (金)	10/22 (火)	10/9 (水)	11/21(木)	11/18(月)、11/22(金) 1/10(金)
座学	実施予定	10/4 (金) ~ 11/5 (火)	10/15 (火) ~ 11/12 (火)	11/11 (月) ~ 12/8 (日)	11/11 (月) ~ 12/19 (木)	12/6 (金) ~ 1/15 (水)	12/23 (月) ~ 1/30 (木)
演習	開催形式	集合形式	集合形式	集合形式	集合形式	集合形式	ハイブリッド形式
	実施予定	11/6 (水) 9:30-17:00	11/13 (水) 10:00-17:00	12/9 (月) 9:30-17:00	12/20 (金) 9:30-17:00	1/16 (木) 9:30-17:00	1/31 (金) 13:00-16:30
地域検討会 第3回		11/15 (金)	11/28 (木)	12/17(火)	12/25 (水)	1/22(水)	2月上旬
対象者		・県の防災関係職員 ・県内市町村の 防災関係職員	・県職員 ・県内市町村職員	・県職員 ・県内市町村職員	・県職員 ・県内市町村職員	・県内市町村の 防災担当職員 等	・県職員 ・県内市町村職員
受講者(見込) 【修了者】		33人 【26人】	56人 【50人】	52人	46人	48人	(50人)
自主企画		なし	なし	なし	なし	あり	なし
地域講師		なし	なし	なし	なし	あり	なし
コンサル ティングシート		単年度	単年度	単年度	単年度 / 複数年度	複数年度	単年度
コーデ イナー		大原委員	木村委員	佐藤委員	国崎委員	鍵屋委員	田村委員
地域研修 実施年度		R1/R3~R5	R3~R5	未実施	R5	R3	未実施

# 〔奈良県〕 令和6年度地域研修 演習実施レポート

## 研修のテーマ 災害発生時に地方自治体に求められる役割と応急対策の実態

オンデマンド講義：10/4（金）～ 11/5（火） 演習：11/6（水） 集合形式 コーディネーター：大原委員

時間	単元名	講師名	実施内容	コーディネーター意見
09:30 ～09:40	オリエンテーション			
09:40 ～10:35	【講義】 地域の災害特性	本多 敏幸 (奈良地方気象台)	地域の災害特性(地域の脆弱性含む)、想定される被害状況とその発生メカニズムの理解を図った。  	近年の豪雨事例から地域特性について解説いただき、大変有意義な講義でした。
10:35 ～10:45	休憩			
10:45 ～12:25	【演習】 災害時の県と市町村の業務	竹本 加良子 (サイエンスクラフト) 大原 美保 (東京大学大学)	演習を通じて、応援要請や応援受け入れ時の市町村の役割と、市町村による応援要請における県の役割を理解を図った。  	グループワークに際して、県職員・市町村職員を混ぜたグループ構成にしており、活発な議論につながったと思います。
12:25 ～13:25	昼休み			
13:25 ～14:00	【講演】 災害対応の実態と課題	米津 浩幸 (奈良県)	令和6年能登半島地震時の応援または受援の実体験を踏まえた講演から、応援受援の実態と課題の理解を図った。  	応援を受け入れる被災地側・応援に行く側の両方の視点から講演があったのが、良かったです。
14:00 ～14:10		黒田 篤史 (穴水町)		
14:10 ～15:10	【トークセッション+講義】 災害対応の実態と課題のポイント	米津 浩幸(奈良県) 黒田 篤史(穴水町) 大原 美保 (東京大学大学)	講演内容や応援受援に関して受講者からの質問を集め、講演者が一問一答形式で回答することで応援受援の理解を深めた。  	被災地からオンラインで質問に回答いただく形式で行いましたところ、質問がたくさん出て、時間が足りないくらいでした。
15:10 ～15:40		大原 美保 (東京大学大学)	応援受援のヒヤリハット事例を通じて、演習や講演で学んだ応援受援に関する理解を補完した。  	全体のテーマが応援受援でしたので、その話題に焦点をあてた講演に努めました。
15:40 ～15:50	休憩			
15:50 ～16:50	【演習】全体討論	事務局 大原 美保 (東京大学大学)	演習を通じて、研修全体で学んだことから、地域の防災力向上や備えに反映すべきことを受講者間でふりかえった。  	他のグループの議論結果を学ぶこともでき、より幅広い理解につながっていると思います。
16:50 ～17:00	閉講			

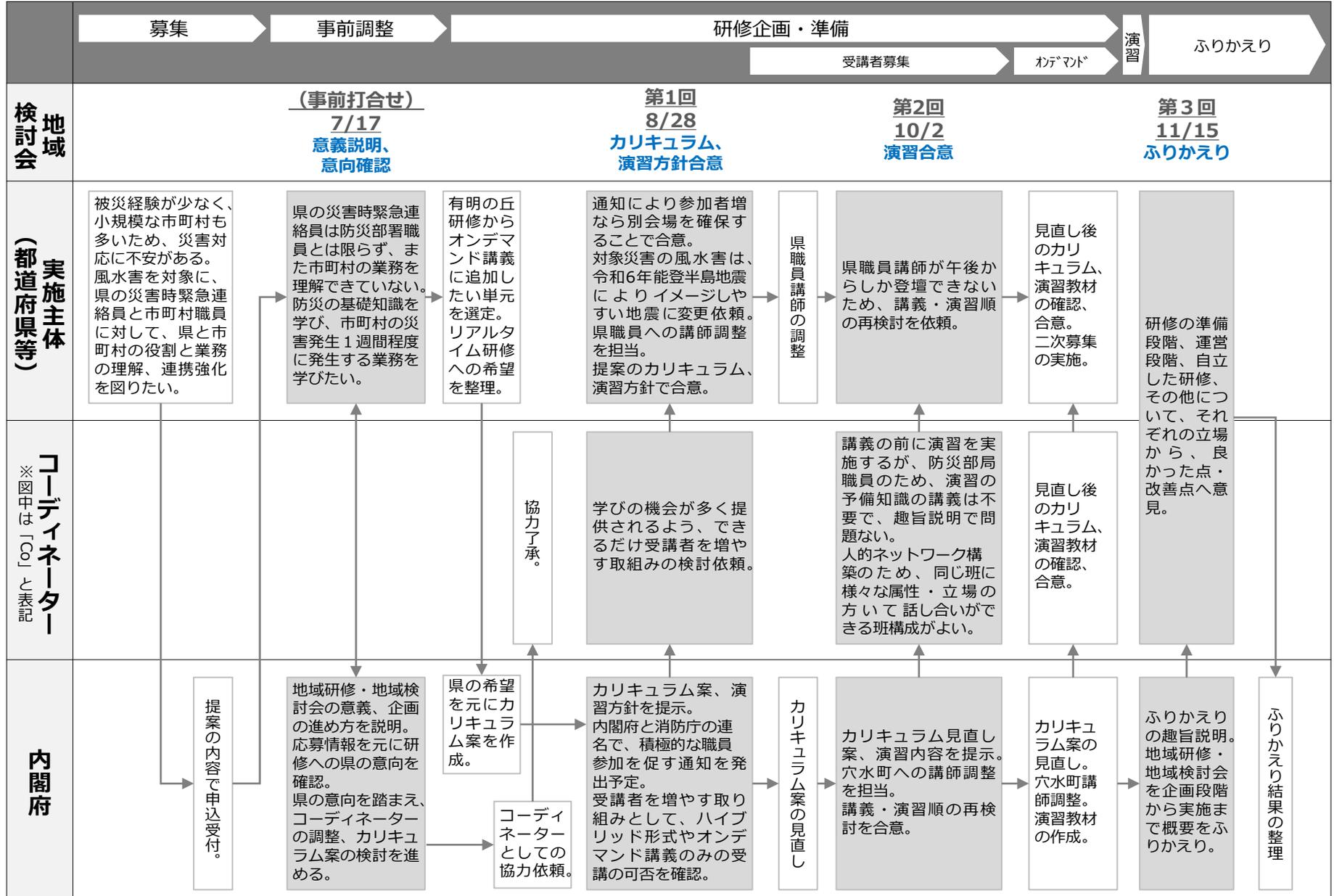
## 研修のテーマ 災害発生時に地方自治体に求められる役割と応急対策の実態

オンデマンド講義：10/4（金）～ 11/5（火） 演習：11/6（水） 集合形式 コーディネーター：大原委員

【県】：県担当者意見 / 【コ】：コーディネーター意見

ふりかえり項目		よかった点	課題・改善点
準備段階	内閣府への応募	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】応募時期が後ろ倒しになったため、スケジュール調整がタイトであった。</li> <li>【県】防災職員のスケジュールと合わず、実施時期が適切ではなかった。</li> </ul>
	企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】地域検討会の回数や方向性は適切だった。</li> <li>【コ】定期的に打ち合わせが実施されたため、特に問題はなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】地域検討会後に、事務方での認識合わせの機会があるとよい。</li> </ul>
	募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コ】研修内容を応援受援に絞ったことは良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】募集時にカリキュラムが明確でなかった。</li> <li>【県】参加市町村の集め方が課題であり、他の研修との差別化が必要。</li> <li>【コ】オンデマンド講義では防災全般を学んだが、リアルタイム研修では応援受援に絞ったため、参加者が混乱したのではないか。リアルタイム研修の内容が十分周知されていたか不安がある。</li> </ul>
運営段階	オンデマンド講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】研修担当者にとって、有明の丘研修の講義動画を組み合わせられることは魅力的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】有明の丘研修の講義動画を流用することで、有明の丘研修と内容が重複することから、受講者にとって魅力が薄かった。</li> <li>【コ】視聴時間が長いため、テーマに合致した講義のみ受講必須として数を絞ることで参加者の負担が軽減されると考える。</li> <li>【コ】テーマに関連する講義を必須にすることで、オンデマンド講義での事前学習と、リアルタイム研修のギャップが減らせるのではないか。</li> </ul>
	リアルタイム研修 (対面形式)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】トークセッション形式は、新鮮で非常に参考になった。受講者からの多数の質問を通じて、一方通行ではなく全体とやりとりできてよかった。</li> <li>【コ】被災地の行政職員は対面が難しいため、オンラインを活用して講義いただけることは非常に貴重だった。</li> <li>【コ】電波環境が安定しており、運営の事前準備に感謝している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コ】トークセッションでの質問が多く、取り上げられなかった質問への対応が不足していた。被災地以外の講師であれば、後から質問に回答する仕組みを取り入れるべき。</li> </ul>
	人的ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】集合研修の場で県・市町村の職員が直接顔を合わせたことで関係構築が進んだ。</li> <li>【コ】県と市町村や、年代、経験の異なる受講者が混ざって議論できた。</li> <li>【コ】各班に複数の県職員がいたことで県・市町村で議論しやすかった。</li> </ul>	—
年度	自立した研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コ】県職員が講師を担当し、自身の体験談を元に講義できたことで、自立した研修に近づいたと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】講師やコーディネーターを紹介いただけるとありがたい。普段知り合えない講師と繋がり、研修の質が向上すると考える。</li> </ul>
その他	全般	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】都道府県の研修担当者が、他県の地域研修を視察できる仕組みがあるとよい。</li> <li>【コ】近畿ブロック内で奈良県以外の他府県に関与してもらうため、他府県に見学に来てもらう、奈良県の事例を紹介する等の仕組みが必要。</li> </ul>

# 〔奈良県〕 地域研修の企画・実施 実際のプロセス



## 研修のテーマ 県と市町村の受援体制の確認

オンデマンド講義：10/15（火）～11/12（火） 演習：11/13（水） 集合形式 コーディネーター：木村委員

時間	単元名	講師名	実施内容	コーディネーター意見
10:00 ～10:10	オリエンテーション			
10:10 ～11:15	【講演】 事例から学ぶ 受援の実態と課題	和田 大志 (熊本県) 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	平成28年熊本地震、令和2年7月豪雨時の災害対応経験の講演から受援の実態と課題の理解を図った。 	熊本県の受援体制の確立や連携のあり方について事例をもとに学べた。ただし人口規模の小さな市町にはイメージしにくい様子もみられた。
11:15 ～11:50	【トークセッション】 受援の実態と 課題のポイント		講演内容や応援受援に関して受講者からの質問を集め、講演者が一問一答形式で回答することで応援受援の理解を深めた。 	
11:50 ～12:50	昼休み			
12:50 ～14:20	【演習】 災害対応過程と 態度を学ぶ	瀧波 崇 (サイエンスクラフト) 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	演習を通じて、令和6年能登半島地震時の災害対応支援の経験談を題材に、応援受援に関する活動上の課題やポイントや心構え、準備すべきことの理解を図った。 	本研修実施のために新たに作成した「応援受援エスノグラフィ」は、具体的な行動が明確で今後も使える。参加者の気づき・学びも大きかった。
14:20 ～14:30	休憩			
14:30 ～16:00	【演習】 受援業務における 初動対応演習	元谷 豊 (サイエンスクラフト) 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	演習を通じて、応援要請や応援受入れ時の市町村の役割と、市町村による応援要請における県の役割を理解を図った。 	応援受援体制の基礎的な内容だったが、参加者は手こずっていた。初心者には応援受援は難しいテーマだったかもしれない。
16:00 ～16:50	【演習】 全体討論	事務局 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	演習を通じて、研修全体で学んだことから、地域の防災力向上や備えに反映すべきことを受講者間でふりかえった。 	
16:50 ～17:00	閉講			計画段階で時間の関係で削除されそうだったが、やはり振り返りで学びを「見える化」することは不可欠である。 

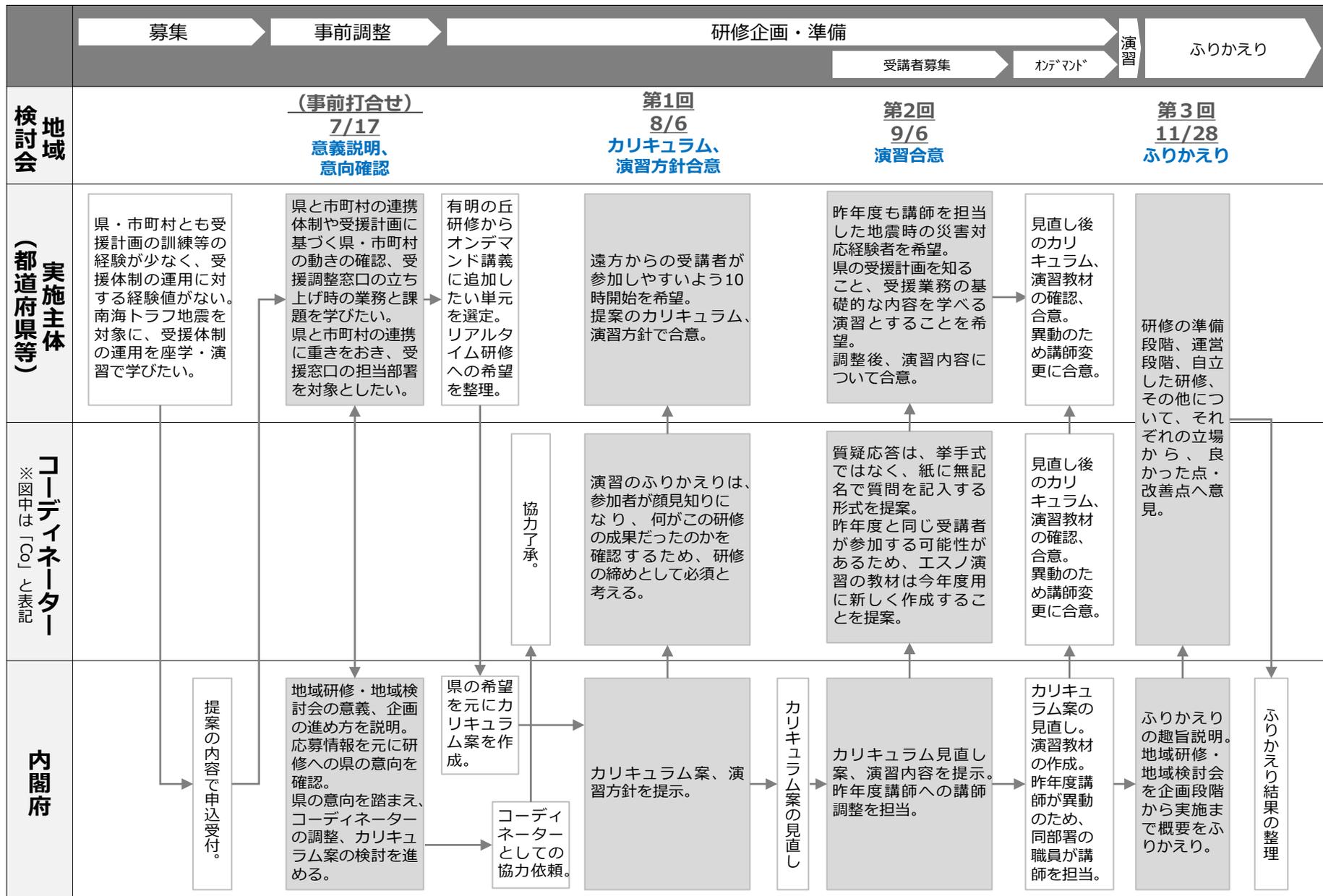
## 研修のテーマ 県と市町村の受援体制の確認

オンデマンド講義：10/15（火）～ 11/12（火） 演習：11/13（水） 集合形式 コーディネーター：木村委員

【県】：県担当者意見 / 【コ】：コーディネーター意見

ふりかえり項目		よかった点	課題・改善点
準備段階	内閣府への応募	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】募集時期や要項について特に問題なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】コンサルティングシートの記入内容が具体的にどのレベルまで求められるかがわかりにくかった。また、過去事例があれば参考になった。</li> <li>【コ】過去の研修事例の紹介が必要。</li> </ul>
	企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コ】全員が関与して研修を作り上げていくことに意義があるため、今の形式で、みんなが関与しながら打ち合わせる事、打合せ回数や内容は問題ないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】もう少し早い時期の開催だとよい。初回打ち合わせの時期が出水期前だと、1回目・2回目の地域検討会に余裕が持てたと考える。</li> <li>【コ】打合せの実施時期は、早めに行えるものは早めに実施するとよい。</li> </ul>
	募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】募集要項について、内容はわかりやすく、特に改善点は無い。</li> <li>【コ】県での研修が定着し、認知が広がった。</li> <li>【コ】防災担当者以外の参加も柔軟に受け入れられる内容でよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】防災担当以外の職員には研修内容のイメージがわかりにくく、カリキュラムや1日の流れを早めに示す必要性があった。</li> <li>【県】防災担当以外の職員への効果的な募集方法を知りたい。</li> <li>【コ】他の県下市町村も参加できるとよかった。</li> <li>【コ】受講者の県・市町村が別研修や議会で忙しくなる時期に研修を実施するスケジュールが適切ではない。</li> </ul>
運営段階	オンデマンド講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】システムの使いやすさや講義の時間設定は概ね好評だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】内容が多すぎると感じる市町村からの声があった。</li> </ul>
	リアルタイム研修（対面形式）	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】対面でのグループワーク形式が顔の見える関係ができ、他部署の方などいろんな方とお話できたと市町村から好評で、研修形式に満足している。前日の準備も負担にならなかった。</li> <li>【コ】質疑応答も充実していて良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コ】一部の講義内容が実務に活かしづらいと感じられた。</li> <li>【コ】色々なことが学べたが、時間がタイトで急ぎ足だったため、悪くはなかったが、受講者の満足度が下がったのではないかと心配している。</li> </ul>
	人的ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】グループワーク形式が市町村から好評だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】市町村の組み合わせや災害時に横の連携が必要になる関連課同士を同じ班にするなど、班編成時にもっと工夫するべきだった。</li> <li>【コ】参加者同士のネットワーク形成の効果が不明確。</li> </ul>
次年度	自立した研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】受援の事前研修を来年度以降に実施してもよいのではないかと話が上がっている。ただ、研修の方向やどんな支援があるとよいかは手探り状態でまだ明確になっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】防災担当とそれ以外の職員がいる場合の研修は、どちらに合わせるかで難易度設定が難しい。</li> <li>【コ】県で研修を企画する際に情報提供や支援を内閣府に依頼するとよいのではないかと。</li> </ul>
その他	全般	—	—

# 〔岡山県〕 地域研修の企画・実施 実際のプロセス

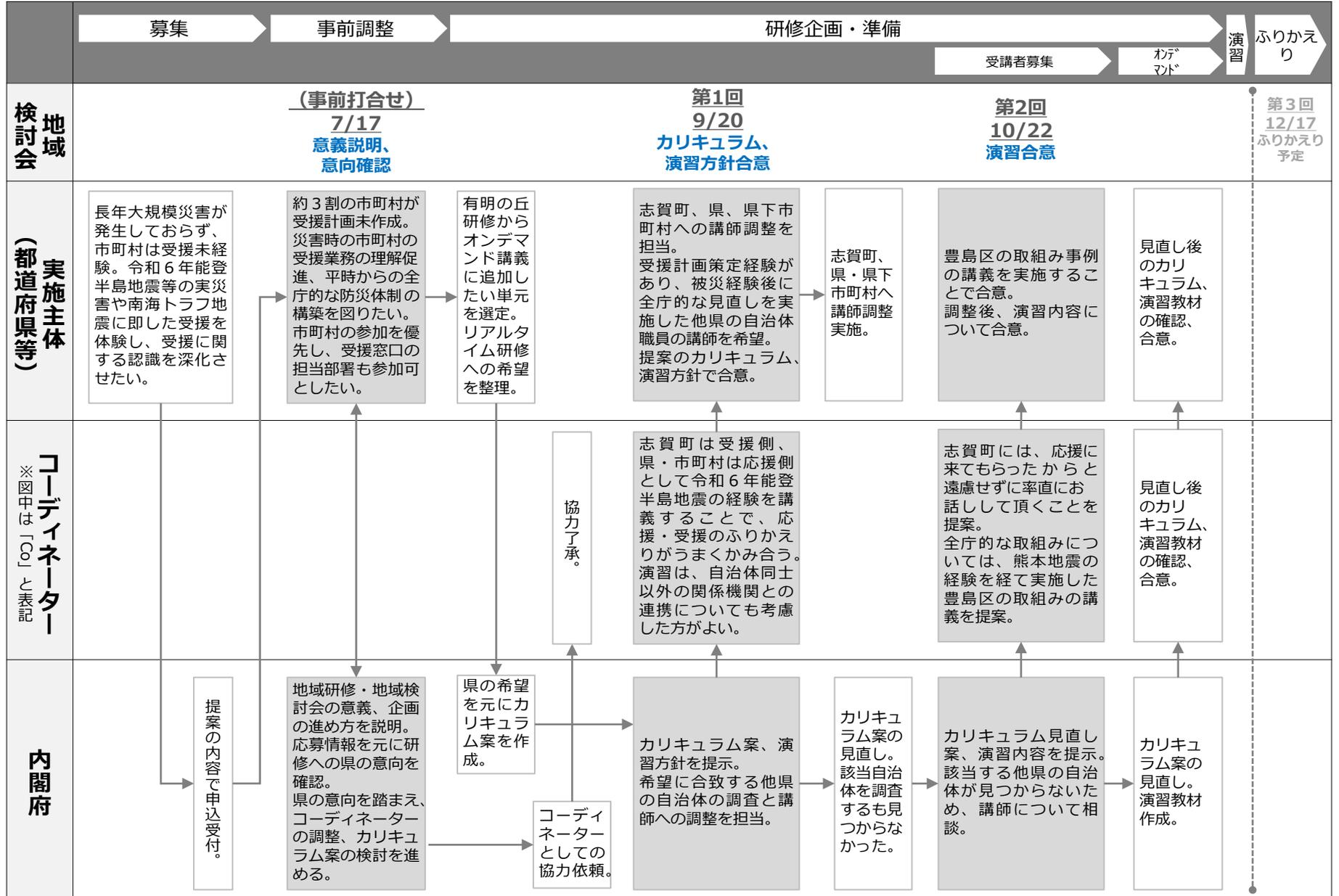


## 研修のテーマ 受援体制と受援計画及び応援団体の受け入れ

オンデマンド講義：11/11（月）～12/8（日） 演習：12/9（月） 集合形式 コーディネーター：佐藤委員

時間	単元名	講師名	実施内容	コーディネーター意見
09:30 ～09:40	オリエンテーション			
09:40 ～10:00	【講演+トークセッション】 能登半島地震における被災市町村の受援の実態と課題	黒萩 正恵 前 理加 岡 真輝 (石川県志賀町) 佐藤 和彦 (大正大学)	令和6年能登半島地震時の受援の実体験を踏まえた講演から、受援の実態と課題の理解を図った。	講演・トークセッションとも、もう少し時間があるとよかった。トークセッションでは、数多くのコメントシートが出されたため、より応援受援業務に関連が深い質問を優先した。志賀町と受講者とは直接質疑応答できる時間を設けることができればより深い意見交換ができたかもしれない。
10:00 ～10:40			講演内容や応援受援に関して受講者からの質問を集め、講演者が一問一答形式で回答することで応援受援の理解を深めた。	
10:40 ～10:50	休憩			
10:50 ～11:20	【講演】 能登半島地震における応援の実態と課題	原 雅有 (愛知県)	令和6年能登半島地震時の応援の実体験を踏まえた講演から、県と市町村の受援の実態と課題の理解を図った。	受援と応援両方の講義があったため、受援・応援業務の理解がより深まった。
11:20 ～11:50		山本 裕介 (愛知県弥富市)		
11:50 ～12:50	昼休み			
12:50 ～13:40	【講義】 受援計画策定と受援時の課題	佐藤 和彦 (大正大学)	豊島区の事例から、受援計画策定時に発生した課題や策定ポイント、策定にあたっての全庁的な取組みを学んだ。	事例紹介の後に演習を行う流れは、受援計画作成について理解を深めるうえで有効であった。グループワークで、自治体間の交流機会を提供したことは人的ネットワーク構築の一助となったのではないかと感じた。事例が少し古かったことが難点だったか…
13:40 ～15:50	【演習】 災害対応過程と受援を学ぶ	元谷 豊 (サイエンスクラフト) 佐藤 和彦 (大正大学)	演習を通じて、応援要請から応援受け入れの流れ、必要な人員の算出方法を学び、市町村と県が平時から取り組むべき事項の理解を図った。	
15:50 ～16:00	休憩			
16:00 ～16:50	【演習】 全体討論	事務局 佐藤 和彦 (大正大学)	演習を通じて、研修全体で学んだことから、地域の防災力向上や備えに反映すべきことを受講者間でふりかえった。	受講動機から研修の成果までグループワークで整理したことは、受講者個人の次の行動への意欲を高めるとともに、自治体を超えた交流のよい機会となった。
16:50 ～17:00	閉講			

# 〔愛知県〕 地域研修の企画・実施 実際のプロセス



## 研修のテーマ 災害対策本部の運営について（各班の役割、関係機関との連携）

オンデマンド講義：11/11（月）～ 12/19（木） 演習：12/20（金） 集合形式 コーディネーター：国崎委員

### オンデマンド講義カリキュラムの検討

■：基礎的な内容      ■：応用的な内容も含む      ●：受講必須      ◇：受講任意

#### オンデマンド講義に関する県の要望

- ・災害対策本部業務が学べること
- ・初動期の対応業務全般が学べること
- ・防災未経験の職員が防災の基本的な知識から学べること
- ・市町村向けに避難所開設・運営や救援物資といった具体的な業務が学べること

#### カリキュラムの提案

- ・県が選定した単元を元にカリキュラム案を作成
- ・全単元の視聴時間が約20時間になり受講負担が大きい  
ため、次の考えで受講の必須・任意を設定して必須の視聴時間を短くしてはどうか
  - 受講者に防災の未経験者が多いため、防災の基本的な知識が身に付く単元を受講必須とする
  - より深く学べる内容を含む単元を受講任意とする

#### 県との調整

- ・県・市町村から令和6年能登半島地震の支援に大勢派遣されており、災害対応への意識が高まっている。オンデマンド講義で基礎的なことを学び、演習で能登半島地震の教訓を学ぶことで災害対応が非常にイメージしやすくなるとして、右のカリキュラムで確定した

区分	単元名	時間
災害対応業務全般	1 防災行政概要	20分
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	15分
	3 防災計画の概要	15分
	4 地域の災害特性	60分
災害対策本部について	5 対策立案総論	65分
	6 災害対策本部が行う対策立案プロセス	55分
災害から命を守る	7 避難行動の概要	15分
	8 風水害における警報と避難	120分
応急活動・資源管理	9 応急活動・資源管理総論	65分
	10 活動拠点・環境の確保	105分
	11 災害廃棄物処理の概要	10分
避難所の開設・運営関連	12 避難所の開設・運営の内容	15分
	13 避難所のライフサイクル	55分
	14 避難所運営の実際	55分
災害時の応援・受援関連	15 受援体制と受援計画の概要	15分
	16 救助・捜索活動における連携の概要	15分
	17 初動対応における国との連携	25分
	18 地方公共団体間の相互応援と受援体制	105分
物資の調達・輸配送	19 国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	15分
	20 救援物資の調達	35分
	21 救援物資の輸配送	30分
	22 救援物資ロジスティクス演習	30分
災害ボランティア	23 災害ボランティア	30分
	24 災害救助法の概要	15分
	25 被害認定調査・罹災証明書の概要	5分
被災者への支援	26 仮設住宅の供給の概要	15分
	27 要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援	90分
	28 災害時の保健・医療・福祉活動と調整の概要	15分
地域の防災力の向上	29 地区防災計画と住民主体の災害への備えの概要	15分
	30 地域防災計画・地区防災計画	65分
	31 地域の自主的な防災活動	70分

## 研修のテーマ 災害対策本部の運営について（各班の役割、関係機関との連携）

オンデマンド講義：11/11（月）～12/19（木） 演習：12/20（金） 集合形式 コーディネーター：国崎委員

### 演習カリキュラムの検討

#### 演習カリキュラムに関する県の要望

- ・初動期の災害対策本部機能を強化し、何とか機能すること
- ・県と市町村の役割や業務の違い、共通の部分を学び、各々の業務を理解すること
- ・令和6年能登半島地震の災害対応上の課題と対応を学べること

#### カリキュラムの提案

- ・県の要望を踏まえて以下を提案（青字）
- ・コーディネーターは以下を助言（赤字）

国・県・市町村の視点による令和6年能登半島地震での災害対応の実態と課題を学ぶ

国の講義に令和6年能登半島地震での課題（1.5次避難・2次避難、要配慮者、ボランティア等）を加えるとよい  
県・市町村とも応援経験者に講演いただくとよい

全体的な視点による令和6年能登半島地震および過去事例から災害対応の実態と課題、解決策を学ぶ

災害対策本部の初動期の対応業務、避難所開設・運営時の対応業務、物資の提供・調達・輸送における県・市町村の役割や課題・事前の取り組みを学ぶ

時間に限りがあるため、テーマを絞って深く検討してもらい、受講者にはより具体的に検討してもらってはどうか

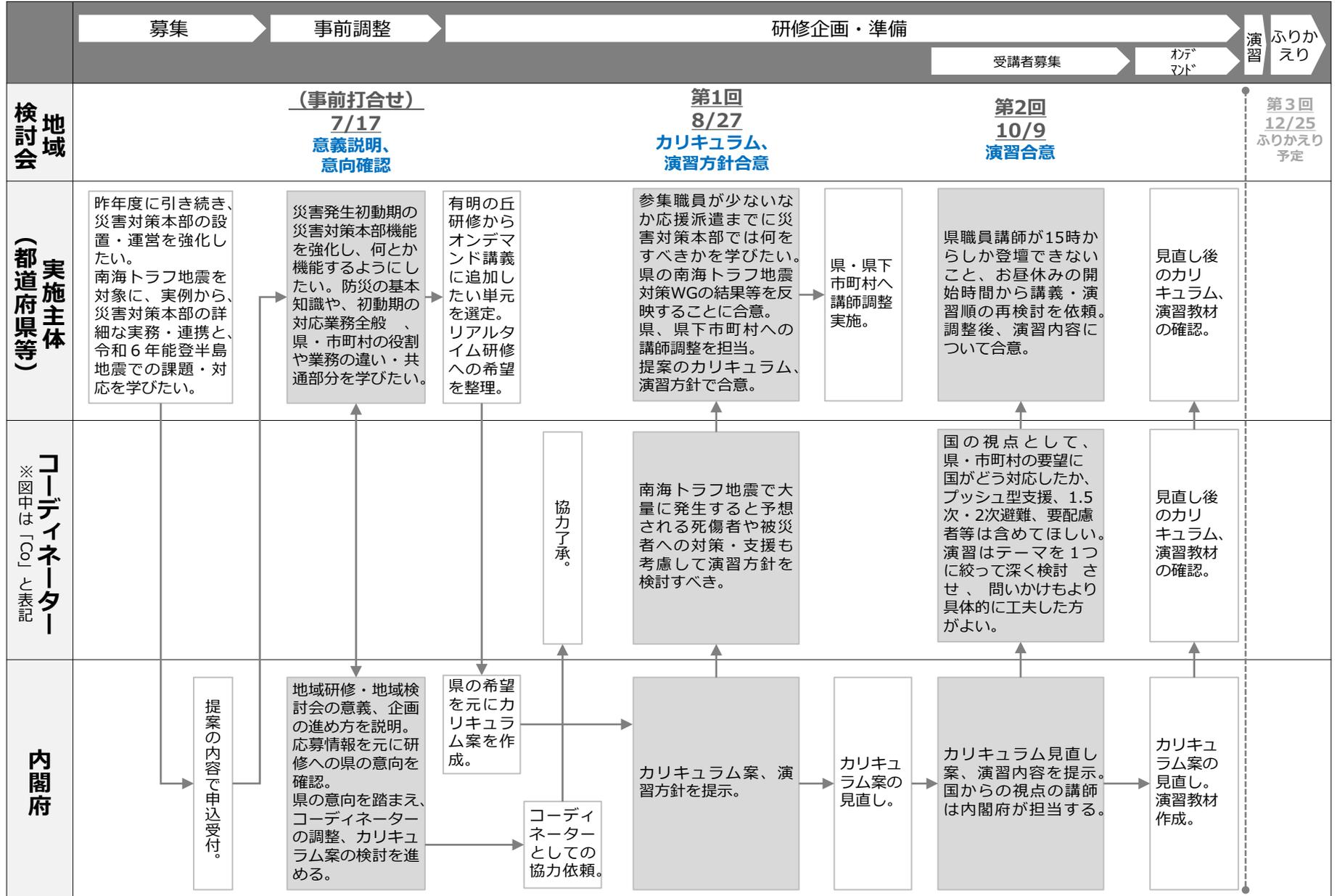
研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを認識する

#### 県との調整

- ・単元の内容等に問題なし
- ・講師の登壇時間やお昼休みの開始時間の要望があり、講義順等を調整して、右のカリキュラムで確定

時間	単元	時間	講師等
09:30 ～09:40	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)
09:40 ～09:55	【講義】 1 令和6年能登半島地震について 国としての課題認識	15分	菊池 正彦 (内閣府)
09:55 ～10:25	【講演】 2 令和6年能登半島地震について 災害対応の実態と課題 (市町村の視点)	30分	中山 博之 (徳島県美馬市)
10:25 ～11:25	【講義】 3 令和6年能登半島地震について 災害対応の実態と課題	60分	国崎 信江 (危機管理教育研究所)
11:25 ～12:25	- (昼休み)	60分	
12:25 ～14:55	【講義+演習】 4 災害対策本部における対応	150分	元谷 豊 (サイエンスクラフト) 国崎 信江 (危機管理教育研究所)
14:55 ～15:05	- (休憩)	10分	
15:05 ～15:55	【講演】 5 令和6年能登半島地震について 災害対応の実態と課題 (県の視点)	50分	朝田 将 (徳島県)
15:55 ～16:00	- (休憩)	5分	
16:00 ～16:50	6 全体討論	50分	事務局 国崎 信江 (危機管理教育研究所)
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	(事務局)

# 〔徳島県〕 地域研修の企画・実施 実際のプロセス



## 研修のテーマ 要配慮者に関連する防災対策（個別避難計画）

オンデマンド講義：12/6（金）～ 1/15（水） 演習：1/16（木） 集合形式 コーディネーター：鍵屋委員

### 演習カリキュラムの検討

#### 演習カリキュラムに関する県の要望

- ・職員の異動で作成未経験者ばかりになり、個別避難計画が引き継がれないため、市町村の担当者が作れる実力をつけたい
- ・実際に個別避難計画を作成し、専門家から良い点・悪い点の指摘をもらいたい
- ・市町村の個別避難計画の作成レベルに応じて学べるとよい

#### カリキュラムの提案・調整

- ・県の要望を踏まえて以下を提案（青字）
- ・コーディネーターは以下を助言（赤字）
- ・県は異論無しとして、右のカリキュラムで確定

演習には、社協、ケアマネ協会、障害者の相談支援専門員、気象台の要配慮者担当等にも県から参加を依頼してはどうか

近年の大災害の事例を通じて災害時における要配慮者等の避難の課題や、個別避難計画の取り組み意義と必要性を学ぶ

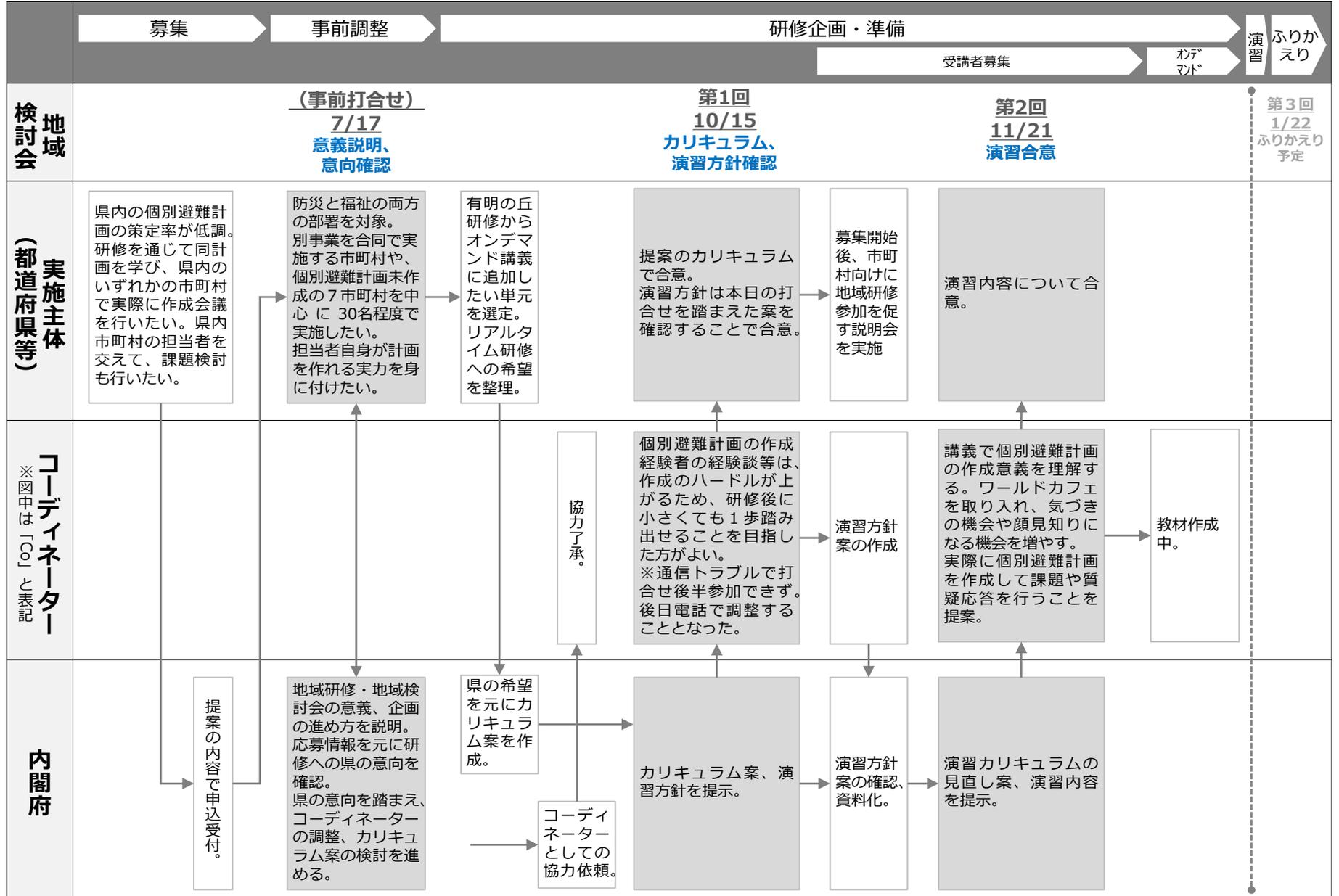
演習を通じて、要配慮者避難の事前の取り組みの重要性を学ぶ  
ワールドカフェを4回繰り返すことによって気づきの機会を増やすとともに、参加者同士の顔の見える関係を作ってはどうか

演習を通じて、自組織の個別避難計画の様式を持ち寄り、作成上の課題を共有し、課題への対応策や解決策のヒントを学ぶ  
演習では、班内で協力して計画を作成しながら個別避難計画に関する質問を考え、班ごとの質問にコーディネーターが回答する形式としてはどうか

研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを認識する  
「自分の組織や業務に活かしたいこと」は、いつまでに実行するか、1ヶ月以内と1年以内等の期限を設けた方がよい

時間	単元	時間	講師等
09:30 ～09:40	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)
09:40 ～11:40	1 【講義】 近年の大災害と個別避難計画	120分	鍵屋 一 (跡見学園女子大学)
11:40 ～12:40	- (昼休み)	60分	
12:40 ～14:10	2 【演習】 要配慮者避難の事例研究	90分	鍵屋 一 (跡見学園女子大学)
14:10 ～14:20	- (休憩)	10分	
14:20 ～15:40	3 【演習】 個別避難計画の作成	80分	鍵屋 一 (跡見学園女子大学)
15:40 ～15:50	- (休憩)	10分	
15:50 ～16:50	4 【演習】 全体討論	60分	事務局 鍵屋 一 (跡見学園女子大学)
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	(事務局)

# 〔宮崎県〕 地域研修の企画・実施 実際のプロセス



## 研修のテーマ 初動期の災害対策本部の設置・運営

オンデマンド講義：12/23（月）～ 1/30（木） 演習：1/31（金） ハイブリッド形式 コーディネーター：田村委員

### オンデマンド講義カリキュラムの検討

■：基礎的な内容

■：応用的な内容も含む

●：受講必須

◇：受講任意

#### オンデマンド講義に関する県の要望

- ・市町村の災害対策本部の初動期業務を学びたい
- ・災害対応業務を体系的に学ぶことで職員の知識の標準化を図りたい

#### カリキュラムの提案・調整

- ・県が選定した単元を元にカリキュラム案を作成
- ・コーディネーターは以下を助言（赤字）
- ・県は異論無しとして、右のカリキュラムで確定

受講者全員に必要な基礎知識のため受講必須

指揮統制を実際の業務に紐づけた講義部分は受講必須

自治体の指揮統制の実態がわかるため受講必須

首長がいかに意思決定を行うかに特化している単元のため受講任意

テーマに一番合致している単元のため受講必須

一部の市町村の要望で追加する単元のため、受講任意

※選定した単元のうち、指揮統制にかかる概念的な内容の単元や、No.18とほぼ同様の内容を医療に照らした単元はカリキュラムからの除外を提案

概要	単元名	時間
防災行政概要	1 災害と防災の基本	● 15分
	2 我が国の自然災害特性	● 15分
	3 近年の災害事例	● 25分
地域の災害特性	4 地域の災害特性	● 60分
	5 防災行政概要	● 20分
災害法体系・防災計画 ・災害への備え	6 災害法体系と災害対策基本法の概要	● 15分
	7 防災計画の概要	● 15分
	8 大規模災害時における政府の初動対応	● 10分
	9 内閣府（防災）における防災人材育成の概要	● 5分
	10 地区防災計画と住民主体の災害への備えの概要	● 15分
	11 避難行動要支援者の避難支援	● 15分
	12 「避難情報に関するガイドライン」の経緯	● 15分
	13 避難行動の概要	● 20分
	14 防災気象情報の概要	● 15分
	15 避難情報の発令判断・伝達等	● 15分
災害から命を守る	16 災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる 世界標準に即した災害対応業務が5つの役割で構成されていることを理解できる	◇ 5分 ◇ 10分
	17 市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解できる 平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換することができる（ICS準拠）	● 10分 ◇ 5分
	18 「令和2年7月豪雨」について熊本県人吉市松岡市長へのインタビューの解説	● 20分 ● 10分
指揮統制総論（世界標準に則した指揮統制） 平時業務を世界標準に即した災害対応業務にどう変換するか	19 災害対策本部を指揮するとは トップと参謀の役割	◇ 15分 ◇ 15分
	20 トップの意思決定・指揮を補佐する参謀機能の強化 情報処理と状況判断	◇ 15分 ◇ 15分
指揮統制の現状	21 災害対策本部の活動サイクル 当面の対応計画の策定	● 15分 ● 10分
	22 当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理 災害対策本部会議の進め方	● 15分 ● 15分
参謀にとつての 災害対策本部運営	23 住民啓発	◇ 60分
	災害対策本部が行う 対策立案プロセス	24 避難所運営現場における課題
25 熊本地震における避難所運営の実際（全体）		◇ 15分
26 熊本地震における避難所運営の実際（環境改善）		◇ 5分
27 熊本地震における避難所運営の課題（車中泊）		◇ 15分
28 熊本地震における避難所運営の課題（ペット対応）		◇ 5分
29 熊本地震における避難所運営の課題（運営主体）		◇ 5分
住民啓発	30 熊本地震における避難所運営の実際（まとめ）	◇ 1分
	31	

## 研修のテーマ 初動期の災害対策本部の設置・運営

オンデマンド講義：12/23（月）～ 1/30（木） 演習：1/31（金） ハイブリッド形式 コーディネーター：田村委員

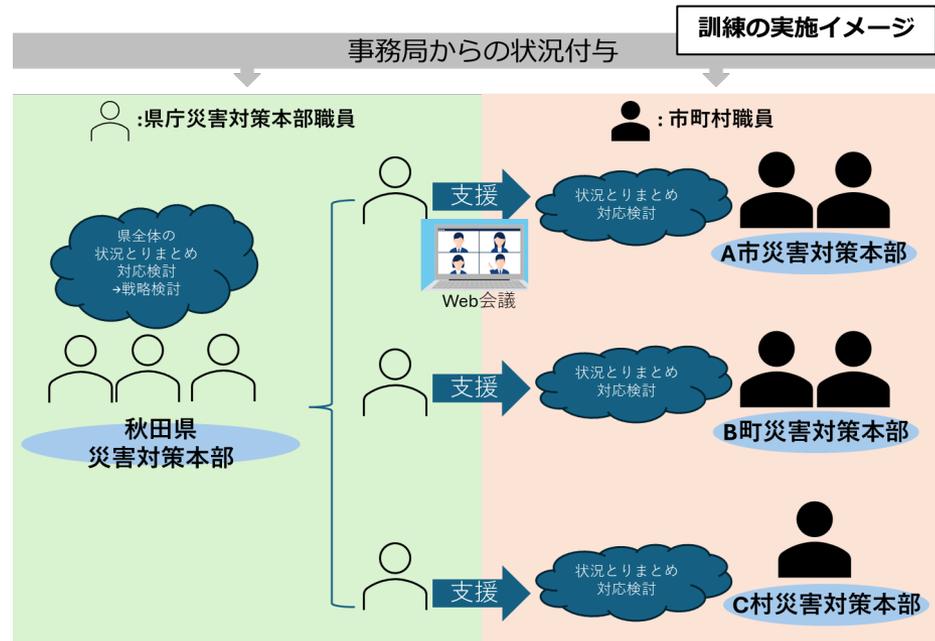
### 演習カリキュラムの検討

#### 演習カリキュラムに関する県の要望

- 市町村の災害対策本部に入った県職員が市町村を支援できるよう研修を通じて能力向上を図りたい
- 令和6年能登半島地震で石川県へ派遣している県職員等から現地の生の声をフィードバックし、市町村に横展開したい。
- 対面+オンラインのハイブリッド形式での開催を希望

#### 実施形式・カリキュラムの提案・調整

- 第2回では、県庁含めた3会場をオンラインでつなぎ、市町村には近い会場に参加していただく形式を提案したが、その後、雪で移動しづらいことや市町村の受講負担を減らすため、市町村にはWeb参加を県が想定していることがわかった。
- そのため、急遽提案を見直して第3回を開き、県庁職員は対面、市町村職員はWeb参加で実施することとなった。
- これを踏まえコーディネーターから以下を提案・助言（赤字）
- 県は異論無しとして、提案の実施形式・カリキュラムで確定



実際の災害対策本部の状況を再現することを試行的に実施することとして次の流れで訓練を実施してはどうか

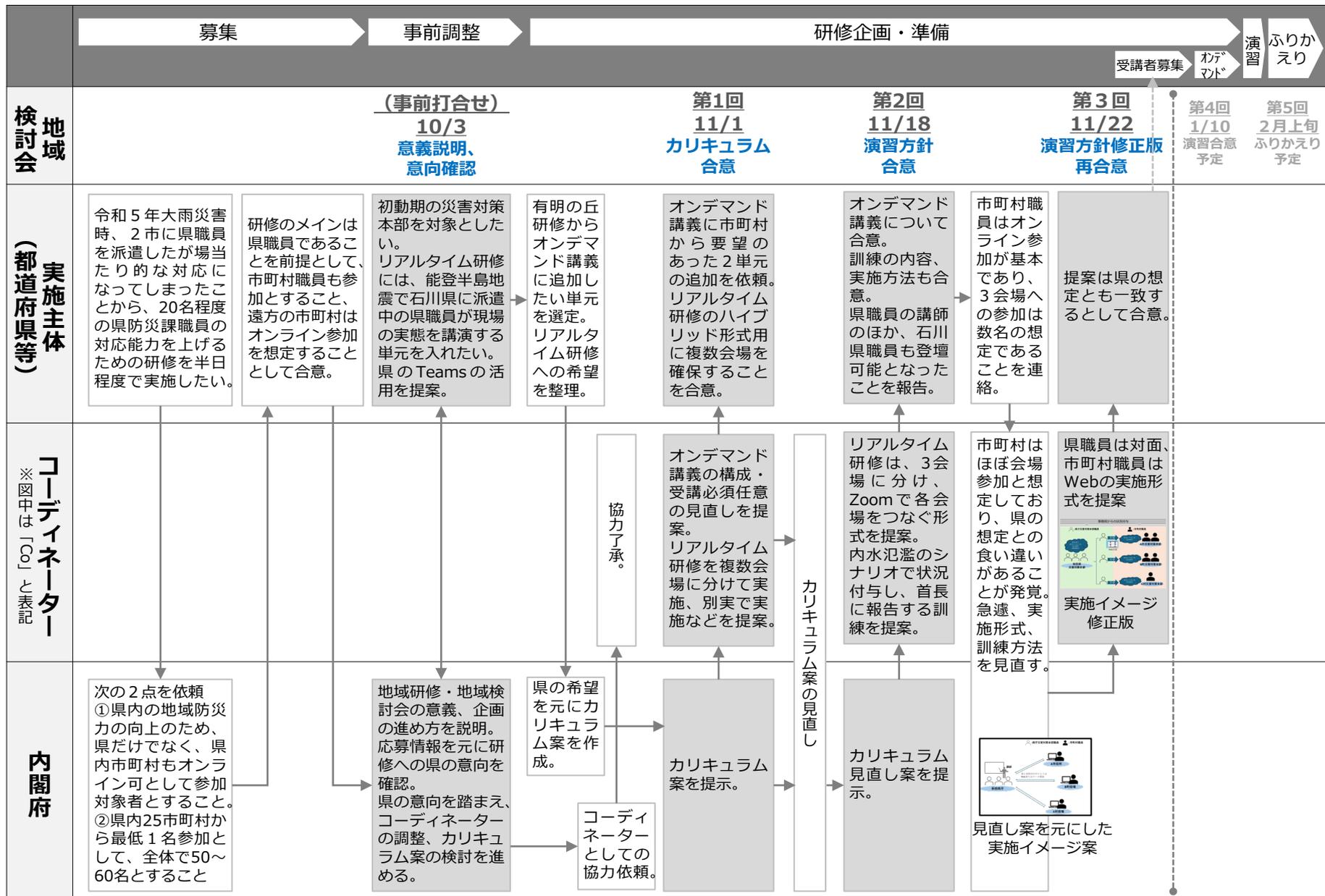
- 1) 災害シナリオに基づき、Webで状況付与
- 2) ワークシートにとりまとめた状況や対応を県に、メールやWebで報告
- 3) 県庁訓練参加者がとりまとめ、県の方針等を市町村に伝える（訓練の実施イメージは右上図参照）

直近の事例であり、県職員・市町村職員が参加するなかで能登半島地震の経験を共有できるのはよいと考える。

研修の最後に、本日の成果を検討し、全員で共有する演習を実施してはどうか。

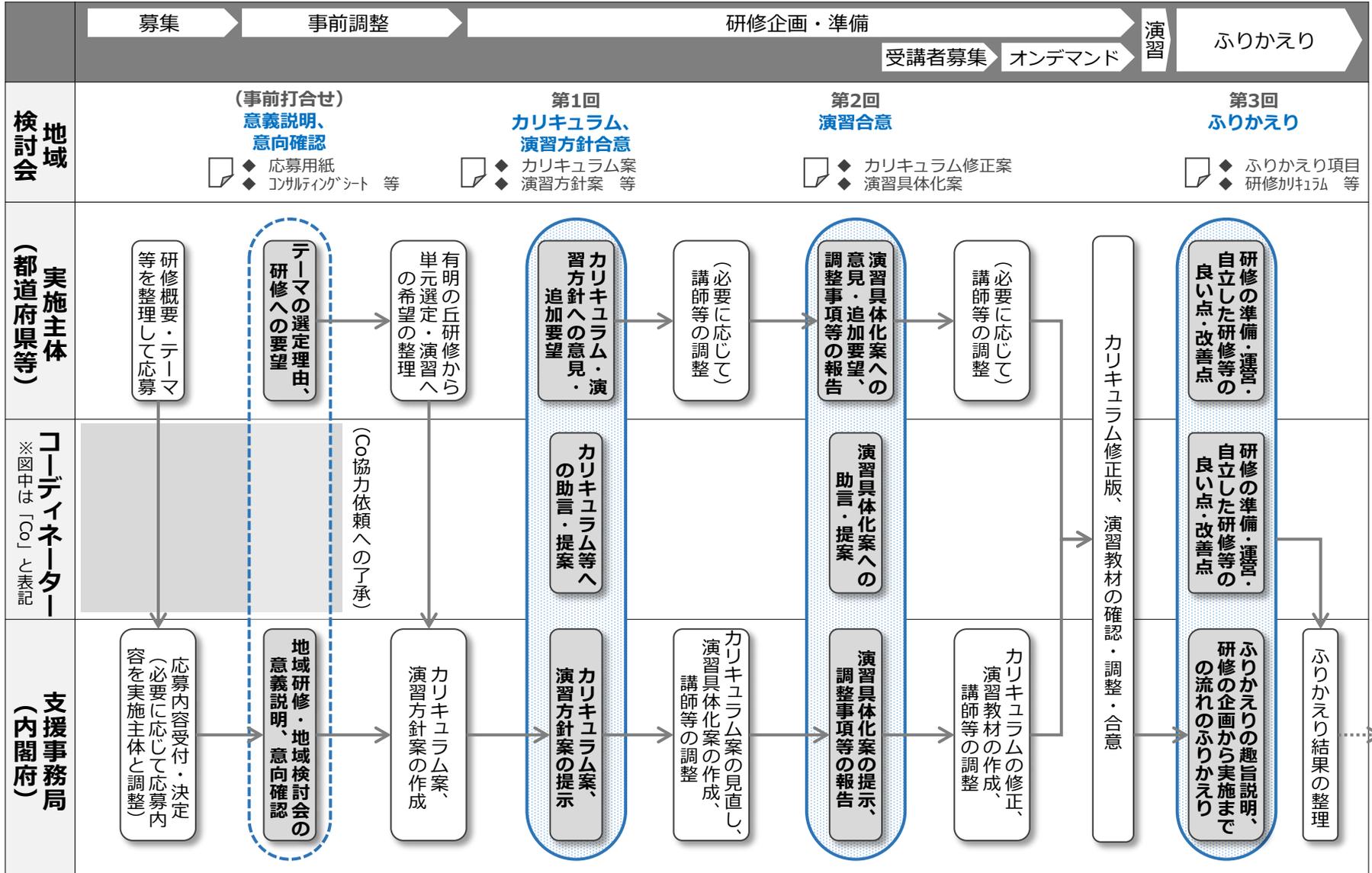
時間	単元	時間	講師等
13:00 ～13:10	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)
13:10 ～15:20	1 【演習】 災害対策本部における対応	120分	田村 圭子 (新潟大学)
15:20 ～15:30	- (休憩)	10分	(事務局)
15:30 ～16:00	2 【講義】※県の提案単元 能登半島地震から学ぶ直近の災害対応事例について	30分	石川県職員 秋田県職員
16:00 ～16:20	3 【演習】 全体討論	20分	田村 圭子 (新潟大学)
16:20 ～16:30	- (閉講)	10分	(事務局)

# 〔秋田県〕 地域研修の企画・実施 実際のプロセス



# 2. 地域研修の企画・実施の標準プロセス(案)

各地域での実際のプロセスを元に、今後、以下のプロセス(素案)の改良を行い、標準的なプロセス(案)を作成していく。



# 3. 令和7年度募集の改善点

## 地域研修の募集に関する主な意見

### 「費用負担の軽減等」

- ・ 企画・実施に係る都道府県の費用負担を提示してほしい。
  - ▶ 募集要項に費用負担について明記

### 「人的負担への配慮」

- ・ 体制確保が困難なため、研修カリキュラムの設計等の準備段階の支援を拡充して欲しい。
  - ▶ 募集要項に都道府県が行う主な業務と所要時間、内閣府等の支援を明記

### 「募集時期の変更」

- ・ 翌年度の研修体制に組み込めるよう、予算確保が可能なタイミングなど、前年度から募集を行い、早期に決定して欲しい。
  - ▶ これまで2月下旬から3月上旬だった募集開始時期を12月下旬頃に前倒し

### 「カリキュラムの具体化」

- ・ 内閣府から具体的な研修カリキュラム・テーマ・内容などを提案して欲しい
  - ▶ 標準カリキュラムを作成し、募集要項に掲載

# 〔応援・受援〕 標準カリキュラム(案) オンデマンド講義

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

概要	応援受援の基本的な知識を学び、災害発生初動期の受援関連業務の概要や課題を理解し、都道府県と市町村の連携を確認する
対象	市町村の受援調整窓口を担当する職員、都道府県の市町村の受援業務を支援する職員

■ : 基礎的な内容    ■ : 応用的な内容も含む    ● : 受講必須    ◇ : 受講任意

区分	単元名	時間	単元の概要
災害対応業務全般	1 防災行政概要	◇ 20分	防災に関する業務全体の流れと各業務の概要・位置付け等を学ぶ
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	◇ 15分	災害関連法の体系と災害対策基本法の概要等を学ぶ
	3 防災計画の概要	◇ 15分	防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画の概要等を学ぶ
	4 地域の災害特性	● 60分	地域の災害特性、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ
応援・受援の基礎知識	5 受援体制と受援計画の概要	● 15分	受援体制の必要性、応援受入れの心構えやポイント、受援計画の整備項目等を学ぶ
	6 応急対策職員派遣制度の概要	● 15分	応急対策職員派遣制度の概要、総括支援チームの役割等を学ぶ
	7 地方公共団体間の相互応援と受援体制	● 130分	応援受援の仕組みと受援体制、受援計画作成と見直しの取組み事例等を学ぶ。
受援対象業務の概要	8 避難所の開設・運営の内容	● 15分	避難所の設置主体や役割、発災前後の避難所開設・運営の業務の概要等を学ぶ
	9 災害廃棄物処理の概要	● 10分	災害廃棄物の種類、処理の流れ、平時からの災害廃棄物対策の概要等を学ぶ
	10 被害認定調査・罹災証明書の概要	● 10分	被害認定調査・罹災証明書の発行の業務の概要等を学ぶ
	11 インフラ復旧の概要	◇ 15分	災害復旧事業の概要、原形復旧と改良復旧の違い、デジタル技術の活用等を学ぶ
	12 災害ケースマネジメントの概要	◇ 15分	災害ケースマネジメントの概要とポイント、取組みの流れ等を学ぶ
物資の調達・輸配送	13 国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	◇ 15分	国からの救援物資の調達・輸配送の概要等を学ぶ
	14 救援物資の調達	◇ 35分	要請から供給の流れ、被災者ニーズに応じた調達に関する実務と課題等を学ぶ
	15 救援物資の輸配送	◇ 30分	災害時の輸配送に関する事業者の取組み、輸配送に関する実務と課題等を学ぶ
	16 救援物資ロジスティクス演習	◇ 30分	物資調達・輸送調整等支援システムを使って調達～配布の留意点等を学ぶ
(カスタマイズ枠)	※有明の丘研修等から自由に単元を追加		

# 〔応援・受援〕 標準カリキュラム(案) リアルタイム研修

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

概要	応援受援の基本的な知識を学び、災害発生初動期の受援関連業務の概要や課題を理解し、都道府県と市町村の連携を確認する
対象	市町村の受援調整窓口を担当する職員、都道府県の市町村の受援業務を支援する職員

時間	単元	時間	講師	単元の概要
9:30 ～9:40	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)	
9:40 ～10:35	1 <b>【講演】 事例から学ぶ受援の実態と課題</b>	55分	受援経験のある 自治体職員	災害時の受援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、受援の実態と課題を学ぶ。
10:35 ～10:50	- (休憩)	15分		
10:50 ～11:45	2 <b>【講演】 事例から学ぶ応援の実態と課題</b>	55分	応援経験のある 自治体職員	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、受援の実態と課題を学ぶ。
11:45 ～12:45	- (昼休み)	60分		
12:45 ～14:25	3 <b>【エスノグラフィー演習】 災害対応過程と態度を学ぶ</b>	100分	内閣府 派遣講師	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験談を教材として読み込み、教材から読み取った知見・教訓をグループワークで整理することで、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。
14:25 ～14:35	- (休憩)	10分		
14:35 ～16:15	4 <b>【演習】 受援業務における初動対応演習</b>	100分	内閣府 派遣講師	災害発生初動期の応援要請と応援受入れのそれぞれの状況で検討する演習を通じて、応援要請や応援受入れ時の市町村の役割と、市町村による応援要請における県の役割を学ぶ。
16:15 ～16:20	- (休憩)	5分		
16:20 ～17:05	5 <b>【演習】 全体討論 (ふりかえり)</b>	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
17:05 ～17:15	- (閉講)	10分	(事務局)	

# 〔災害対策本部(情報収集・分析)〕 標準カリキュラム(案) オンデマンド講義

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

概要	災害対策本部における情報収集・分析業務に必要な知識を学び、災害対策本部での情報の収集から、収集した情報の整理、整理した情報の分析、対策の立案までの一連の流れを理解する
対象	都道府県・市町村の災害対策本部事務局職員

■ : 基礎的な内容    ■ : 応用的な内容も含む    ● : 受講必須    ◇ : 受講任意

区分	単元名	時間	単元の概要
災害対応業務全般	1 防災行政概要	◇ 20分	防災に関する業務全体の流れと各業務の概要・位置付け等を学ぶ
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	◇ 15分	災害関連法の体系と災害対策基本法の概要等を学ぶ
	3 防災計画の概要	◇ 15分	防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画の概要等を学ぶ
	4 地域の災害特性	● 60分	地域の災害特性、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ
災害対策本部が行う 対策立案プロセス	災害対策本部の活動サイクル	● 15分	プランニングP、対策立案プロセスと責任担当期間等を学ぶ
	5 当面の対応計画の策定	● 10分	当面の対応計画とその構造、事前計画と当面の対応計画の関係等を学ぶ
	当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理	● 15分	災害対策本部での情報処理、定型情報・非定型情報の種類と活用等を学ぶ
	災害対策本部会議の進め方	● 15分	災害対策本部会議の進行の基本・心得、本部会議の進め方の事例等を学ぶ
状況認識の統一	6 地図による状況認識の統一とISUTの試み	● 70分	GISによる統合された情報提供の必要性和ISUTの有効性について学ぶ。
指揮統制総論 (世界標準に則した 指揮統制) 平時業務を世界標準に 即した災害対応業務に どう変換するか	7 災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる	◇ 5分	災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を学ぶ
	世界標準に即した災害対応業務が5つの役割で構成されていることを理解できる	◇ 10分	ICSの概要、標準的な災害対応業務の体系等を学ぶ
	市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解できる	● 10分	市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1の概要を学ぶ
	平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換することができる(ICS準拠)	◇ 5分	平時の業務を世界標準に即して変換した災害対応業務の概要を学ぶ
参謀にとつての災害 対策本部運営	8 災害対策本部を指揮するとは	◇ 15分	指揮をするとは何か、指揮を効果的にするための手順と流れを学ぶ
	トップと参謀の役割	◇ 15分	トップと参謀の役割の違い、それぞれの責任の範囲を学ぶ
	トップの意思決定・指揮を補佐する参謀機能の強化	◇ 15分	参謀機能の強化の必要性、総合調整所の概要、部局横断的な体制の必要性を学ぶ
	情報処理と状況判断	◇ 15分	情報処理の重要性、状況判断において参謀に必要な事項を学ぶ
(カスタマイズ枠)	※有明の丘研修等から自由に単元を追加		

# 〔災害対策本部(情報収集・分析)〕 標準カリキュラム(案) リアルタイム研修

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

概要	災害対策本部における情報収集・分析業務に必要な知識を学び、災害対策本部での情報の収集から、収集した情報の整理、整理した情報の分析、対策の立案までの一連の流れを理解する			
対象	都道府県・市町村の災害対策本部事務局職員			
時間	単元	時間	講師	単元の概要
09:30 ～09:40	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)	
09:40 ～10:20	<b>【講義】</b> <b>1 災害対策本部の情報収集・分析の流れと活動上のポイント ※</b>	40分	コーディネーター または有識者	災害対策本部における情報収集・分析の業務の概要と基本的な業務の流れ、活動上のポイント・留意点を学ぶ。
10:20 ～10:30	- (休憩)	10分		
10:30 ～12:00	<b>【講演】</b> <b>2 事例から学ぶ災害対策本部の情報収集・分析の実態と課題 ※</b>	90分	災害対策本部の 運営経験のある 自治体職員 進行：コーディネーター	災害対策本部の情報収集・分析業務を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、業務の課題を学ぶ。
12:00 ～13:00	- (昼休み)	60分		
13:00 ～14:30	<b>【演習】</b> <b>3 災害対策本部における情報整理演習</b>	90分	内閣府 派遣講師	情報の収集から収集した情報の整理までの一連の流れを演習で体験し、災害対策本部での情報収集の手段や収集する情報、その整理方法を学ぶ。
14:30 ～14:40	- (休憩)	10分		
14:40 ～15:55	<b>【演習】</b> <b>4 災害対策本部における情報分析・対策立案演習</b>	75分	内閣府 派遣講師	整理した情報を元に状況を分析し、発生している課題の把握、課題に対して目指すべき目標の設定、目標達成のための対応方針と対策を立てる一連の流れを演習で体験し、災害対策本部での情報分析の方法と、分析した課題への対策の立て方を学ぶ。
15:55 ～16:05	- (休憩)	10分		
16:05 ～16:50	<b>【演習】</b> <b>5 全体討論 (ふりかえり)</b>	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	(事務局)	

※ 1・2限目をエスノグラフィー演習(110分)に変更することも可能。変更する場合、研修の開始時間は9:30から10:00に変更になります。

# 〔災害対策本部(初動対応)〕 標準カリキュラム(案) オンデマンド講義

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

<b>概要</b>	災害対策本部の初動対応に必要な知識を学び、災害発生初動期の災害対策本部の業務の概要を理解し、発生する業務の課題と対応を学ぶ
<b>対象</b>	都道府県・市町村の災害対策本部事務局職員

■ : 基礎的な内容    ■ : 応用的な内容も含む    ● : 受講必須    ◇ : 受講任意

区分	単元名	時間	単元の概要
災害対応業務全般	1 防災行政概要	◇ 20分	防災に関する業務全体の流れと各業務の概要・位置付け等を学ぶ
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	◇ 15分	災害関連法の体系と災害対策基本法の概要等を学ぶ
	3 防災計画の概要	◇ 15分	防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画の概要等を学ぶ
	4 地域の災害特性	● 60分	地域の災害特性、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ
災害対策本部が行う 対策立案プロセス	災害対策本部の活動サイクル	● 15分	プランニングP、対策立案プロセスと責任担当期間等を学ぶ
	5 当面の対応計画の策定	● 10分	当面の対応計画とその構造、事前計画と当面の対応計画の関係等を学ぶ
	当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理	● 15分	災害対策本部での情報処理、定型情報・非定型情報の種類と活用等を学ぶ
	災害対策本部会議の進め方	● 15分	災害対策本部会議の進行の基本・心得、本部会議の進め方の事例等を学ぶ
指揮統制総論 (世界標準に則した 指揮統制) 平時業務を世界標準に 即した災害対応業務に どう変換するか	6 災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる	◇ 5分	災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を学ぶ
	世界標準に即した災害対応業務が5つの役割で構成されていることを理解できる	◇ 10分	ICSの概要、標準的な災害対応業務の体系等を学ぶ
	市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解できる	● 10分	市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1の概要を学ぶ
	平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換することができる(ICS準拠)	◇ 5分	平時の業務を世界標準に即して変換した災害対応業務の概要を学ぶ
指揮統制の現状	7 「令和2年7月豪雨」について熊本県入吉市松岡市長へのインタビュー	● 20分	経験を基にした指揮統制の実態と課題を学ぶ
	インタビューの解説	● 10分	インタビュー内容から指揮統制における重要なポイントを学ぶ
参謀にとつての災害 対策本部運営	8 災害対策本部を指揮するとは	◇ 15分	指揮をするとは何か、指揮を効果的にするための手順と流れを学ぶ
	トップと参謀の役割	◇ 15分	トップと参謀の役割の違い、それぞれの責任の範囲を学ぶ
	トップの意思決定・指揮を補佐する参謀機能の強化	◇ 15分	参謀機能の強化の必要性、総合調整所の概要、部局横断的な体制の必要性を学ぶ
	情報処理と状況判断	◇ 15分	情報処理の重要性、状況判断において参謀に必要な事項を学ぶ

(カスタマイズ枠)

※有明の丘研修等から自由に単元を追加

# 〔災害対策本部(初動対応)〕 標準カリキュラム(案) リアルタイム研修

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

概要	災害対策本部の初動対応に必要な知識を学び、災害発生初動期の災害対策本部の業務の概要を理解し、発生する業務の課題と対応を学ぶ			
対象	都道府県・市町村の災害対策本部事務局職員			
時間	単元	時間	講師	単元の概要
09:30 ～09:40	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)	
09:40 ～10:20	<b>【講義】</b> 1 災害対策本部の初動対応の流れと活動上のポイント ※	40分	コーディネーター または有識者	災害対策本部の初動期における対応業務の概要と基本的な業務の流れ、活動上のポイント・留意点を学ぶ。
10:20 ～10:30	- (休憩)	10分		
10:30 ～12:00	<b>【講演】</b> 2 事例から学ぶ災害対策本部の初動対応の実態と課題 ※	90分	災害対策本部の 運営経験のある 自治体職員 進行：コーディネーター	災害対策本部の初動対応を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、業務の課題を学ぶ。
12:00 ～13:00	- (昼休み)	60分		
13:00 ～14:30	<b>【演習】</b> 3 災害対策本部における初動対応演習(発災当日)	90分	内閣府 派遣講師	災害発生から1時間後および半日後に開催される災害対策本部会議に向けて本部会議で議論すべき事項や課題等を検討する演習を通じて、災害発生直後に発生する業務をイメージし、発生する課題と対応等を学ぶ。
14:30 ～14:40	- (休憩)	10分		
14:40 ～15:55	<b>【演習】</b> 4 災害対策本部における初動対応演習(発災翌日)	75分	内閣府 派遣講師	災害発生の翌日に開催される災害対策本部会議に向けて本部会議で議論すべき事項や課題等を検討する演習を通じて、災害発生翌日以降に発生する業務をイメージし、発生する課題と対応等を学ぶ。
15:55 ～16:05	- (休憩)	10分		
16:05 ～16:50	<b>【演習】</b> 5 全体討論(ふりかえり)	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	(事務局)	

※1・2限目をエスノグラフィー演習(110分)に変更することも可能。変更する場合、研修の開始時間は9:30から10:00に変更になります。

参考：令和6年度の地域研修カリキュラム：秋田県、徳島県 / 令和5年度の地域研修カリキュラム：徳島県

# 〔救援物資の調達・輸配送〕 標準カリキュラム(案) オンデマンド講義

概要	物資の調達・輸配送の基礎的な知識・必要な知識を学び、プッシュ型・プル型の物資支援について都道府県・市町村それぞれの役割と業務、発生する課題とその対応を学ぶ
対象	都道府県の物資担当窓口、市町村の物資担当

■ : 基礎的な内容    ■ : 応用的な内容も含む    ● : 受講必須    ◇ : 受講任意

区分	単元名	時間	単元の概要
災害対応業務全般	1 防災行政概要	◇ 20分	防災に関する業務全体の流れと各業務の概要・位置付け等を学ぶ
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	◇ 15分	災害関連法の体系と災害対策基本法の概要等を学ぶ
	3 災害救助法の概要	◇ 15分	災害救助法の概要、適用の判断基準（考え方）、適用タイミング等を学ぶ
	4 防災計画の概要	◇ 15分	防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画の概要等を学ぶ
	5 地域の災害特性	● 60分	地域の災害特性、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ
応援・受援の基礎知識	6 受援体制と受援計画の概要	● 15分	受援体制の必要性、応援受入れの心構えやポイント、受援計画の整備項目等を学ぶ
	7 応急対策職員派遣制度の概要	● 15分	応急対策職員派遣制度の概要、総括支援チームの役割等を学ぶ
	8 地方公共団体間の相互応援と受援体制	● 130分	応援受援の仕組みと受援体制、受援計画作成と見直しの取組み事例等を学ぶ。
物資の調達・輸配送	9 国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	● 15分	国からの救援物資の調達・輸配送の概要等を学ぶ
	10 救援物資の調達	● 35分	要請から供給の流れ、被災者ニーズに応じた調達に関する実務と課題等を学ぶ
	11 救援物資の輸配送	● 30分	災害時の輸配送に関する事業者の取組み、輸配送に関する実務と課題等を学ぶ
	12 救援物資ロジスティクス演習	● 30分	物資調達・輸送調整等支援システムを使って調達～配布の留意点等を学ぶ
避難所運営業務の基礎知識	13 避難所の開設・運営の内容	◇ 15分	避難所の設置主体や役割、発災前後の避難所開設・運営の業務の概要等を学ぶ
	14 多様な主体による避難所運営	◇ 15分	避難所運営を支援する災害ボランティア等の多様な主体と支援概要等を学ぶ
	15 災害時における男女共同参画の視点からの取組の概要	● 15分	災害時における男女共同参画の視点から取り組むべき事項等を学ぶ

(カスタマイズ枠)

※有明の丘研修等から自由に単元を追加

# 〔救援物資の調達・輸配送〕 標準カリキュラム(案) リアルタイム研修

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

概要	物資の調達・輸配送の基礎的な知識・必要な知識を学び、プッシュ型・プル型の物資支援について都道府県・市町村それぞれの役割と業務、発生する課題とその対応を学ぶ			
対象	都道府県の物資担当窓口、市町村の物資担当			
時間	単元	時間	講師	単元の概要
09:30 ～09:40	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)	
09:40 ～10:50	<b>【講義】</b> <b>1 救援物資の調達・輸配送の流れと活動上のポイント ※</b>	70分	コーディネーター または有識者	救援物資の調達・輸配送業務の概要と基本的な業務の流れ、活動上のポイント・留意点を学ぶ。
10:50 ～11:00	- (休憩)	10分		
11:00 ～12:00	<b>【講演】</b> <b>2 事例から学ぶ救援物資の調達・輸配送の実態と課題 ※</b>	60分	救援物資の調達・輸配送の経験のある自治体職員 進行：コーディネーター	救援物資業務を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、救援物資の調達・輸配送業務の実態と課題を学ぶ。
12:00 ～13:00	- (昼休み)	60分		
13:00 ～14:30	<b>【演習】</b> <b>3 調達・輸配送の実態と課題演習 (プッシュ型)</b>	90分	内閣府 派遣講師	国からプッシュ型で物資が支援される場合、県の拠点への物資の受入れ、県から市町村の拠点への物資の輸送、市町村の拠点から避難所への輸送の一連の流れを演習で体験し、プッシュ型支援における県・市町村の役割分担、情報・物資の流れを学ぶ。
14:30 ～14:40	- (休憩)	10分		
14:40 ～15:55	<b>【演習】</b> <b>4 調達・輸配送の実態と課題演習 (プル型の対応)</b>	75分	内閣府 派遣講師	避難所からのニーズ情報に基づき市町村で物資を調達し、調達した物資の受入れ、市町村の拠点から避難所への輸送の一連の流れを演習で体験し、プル型における県・市町村の役割分担、情報・物資の流れを学ぶ。
15:55 ～16:05	- (休憩)	10分		
16:05 ～16:50	<b>【演習】</b> <b>5 全体討論 (ふりかえり)</b>	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	(事務局)	

※ 1・2限目をエスノグラフィー演習(110分)に変更することも可能。変更する場合、研修の開始時間は9:30から10:00に変更になります。

# 〔避難所開設・運営〕 標準カリキュラム(案) オンデマンド講義

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

概要	避難所開設・運営の基礎的な知識を学び、避難所開設から避難者の受入れ、その後の運営までの業務の流れと課題、避難所の被災者への対応における課題とポイントを学ぶ
対象	市町村の避難所運営担当、避難所全体のマネジメント担当職員

■ : 基礎的な内容    ■ : 応用的な内容も含む    ● : 受講必須    ◇ : 受講任意

区分	單元名	時間	単元の概要
災害対応業務全般	1 防災行政概要	◇ 20分	防災に関する業務全体の流れと各業務の概要・位置付け等を学ぶ
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	◇ 15分	災害関連法の体系と災害対策基本法の概要等を学ぶ
	3 災害救助法の概要	◇ 15分	災害救助法の概要、適用の判断基準（考え方）、適用タイミング等を学ぶ
	4 防災計画の概要	◇ 15分	防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画の概要等を学ぶ
	5 地域の災害特性	● 60分	地域の災害特性、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ
避難所開設・運営	6 避難所の開設・運営の内容	● 15分	避難所の設置主体や役割、発災前後の避難所開設・運営の業務の概要等を学ぶ
	7 多様な主体による避難所運営	● 15分	避難所運営を支援する災害ボランティア等の多様な主体と支援概要等を学ぶ
	8 災害時における男女共同参画の視点からの取組の概要	● 15分	災害時における男女共同参画の視点から取り組むべき事項等を学ぶ
	9 避難所のライフサイクル	● 54分	避難所の運営体制確立～解消、平時からの取組み、ニーズへの対応等を学ぶ
	10 避難所運営の実際	● 57分	熊本地震の事例から避難所運営全体や環境、車中泊、ペット等の課題を学ぶ
	11 要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援	● 90分	避難生活の支援、避難所運営時の健康管理、保健医療体制の全体像等を学ぶ 福祉避難所の役割と必要性、概要、福祉避難所の実際と課題等を学ぶ
(カスタマイズ枠)	※有明の丘研修等から自由に単元を追加		

# 〔避難所開設・運営〕 標準カリキュラム(案) リアルタイム研修

R6.12.16  
第4回「防災スペシャリスト  
養成」企画検討会資料

<b>概要</b>	避難所開設・運営の基礎的な知識を学び、避難所開設から避難者の受入れ、その後の運営までの業務の流れと課題、避難所の被災者への対応における課題とポイントを学ぶ
<b>対象</b>	市町村の避難所運営担当、避難所全体のマネジメント担当職員

時間	単元	時間	講師	単元の概要
09:30 ～09:40	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)	
09:40 ～10:50	<b>【講義】</b> <b>1 避難所開設・運営の流れと活動上のポイント ※</b>	70分	コーディネーター または有識者	避難所における開設・運営時の業務の概要と基本的な業務の流れ、活動上のポイント・留意点を学ぶ。
10:50 ～11:00	- (休憩)	10分		
11:00 ～12:00	<b>【講演】</b> <b>2 事例から学ぶ避難所開設・運営の実態と課題 ※</b>	60分	避難所開設・運営 経験のある 自治体職員 進行：コーディネーター	災害時の避難所開設・運営を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、避難所開設・運営の実態と課題を学ぶ。
12:00 ～13:00	- (昼休み)	60分		
13:00 ～14:30	<b>【演習】</b> <b>3 避難所開設演習 (レイアウトの設定)</b>	90分	内閣府 派遣講師	避難者を受入れるための避難所のレイアウトを設定する演習を行い、避難所に参集してから開設するまでの業務の流れをイメージするとともに、避難所開設時のポイントや留意点を学ぶ。
14:30 ～14:40	- (休憩)	10分		
14:40 ～15:55	<b>【演習】</b> <b>4 避難所受入れ演習 (被災者対応)</b>	75分	内閣府 派遣講師	受入れた避難者の個々の状態や状況に応じてどのような対応が必要かを検討する演習を行い、避難所開設から運営までの業務の流れをイメージするとともに、避難所運営時のポイントや留意点を学ぶ。
15:55 ～16:05	- (休憩)	10分		
16:05 ～16:50	<b>【演習】</b> <b>5 全体討論 (ふりかえり)</b>	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	(事務局)	

※ 1・2限目をエスノグラフィー演習（110分）に変更することも可能。変更する場合、研修の開始時間は9:30から10:00に変更になります。